

⑭ 学校や古民家から共感で広がる「見守り・見守られ」の輪 「形よりも、共通の目標を持つてゆるやかにつながる」

共感できる仲間がいた

地域活動を始めるきっかけは次女の小学校入学。生まれつき病弱だったので、「地域の皆さんに支えてもらいながら、この子を育てていく。」

ということ強く思っていたんです。小学校のお母さんたちには悩みを打ち明けたところ、とても共感してくれて、涙を流してくれる人もいました。

「あゝ話して良かったな。」と感激したのを今でもはつきりと覚えています。

お母さんたちと話すうち「子どもたちは地域で育ち、地域に育ててもらおう。」ということを皆が強く実感するようになったんですね。そこで、

学校では話しきれない様々な問題を話し合う女性PTA役員による学習グループ「きさらぎ」を立ち上げました。

その延長で、原中学校初の女性PTA会長に就任したんです。PTA会長は男性という慣例があったので、最初は様々な意見が聞こえてきました。が、子どもたちのためにという思いで懸命だったの

で、特に苦勞したなという思いはないですね。地域のネットワークを形作る時、「共感」はとても大切だと思いますし、力を与えてくれます。

その後、自治会の改革などにも関わり、新しい住民も共に運営に参画できる民主的な自治会を目指して規約改正などに奮闘しました。

平成4年からは横浜市で初めての市民運営による「長屋門公園歴史体験ゾーン」の事務局長に就任しました。ここが地域活動や活動交流の拠点になっていきます。「禁止事項を設けないで自由に使ってもらおう。」ということが特徴だと思います。

平成25年には、「そこに行けば誰かがいる。」をコンセプトにして、阿久和北部地区の中央に位置する向原第二公園に「見守り合いの家・大きな傘」を、ヨコハマ市民まち普請事業を活用して建設しました。皆で手掛けるをモットーとする阿久和北部地区らしく、地域の人たちみんながまち普請事業のプレゼン資料

を作成し、ログハウスを手作りし、運営スタッフとなって管理・運営しています。

できることから徐々に広がりを

活動を始めると、いろいろな課題があることに気付いて、その課題に一つひとつ真摯に向き合っていて、解決していくうちに、気が付くとたくさんさんの活動につながっている」というのが正直なところ

です。そのため、『特にこの活動は頑張った!』というのではないですね。

周りの人から「清水さんはいろいろとやっていて大変でしょう?」と言われるけれども、私自身の中では、それぞれの活動に興味があつてつながっている」ので、大変だとは思わないですね。自分が進む道の延長線上にある様々な活動の結果がフィールドの広がりになっている感じですよ。

自分の活動と関係ないお役目などを突然引き受けることはしません。

地域で活動するということが

「何でも引き受けてしまう」ことではないと思ってるんです。自分に身近なことから始めて、徐々に活動範囲を広げてくださいね、と伝えたいですね。

地域活動を続けていくと、「失敗しちゃうたら大変だ。」とか「先に進むとこんな問題があるんじゃないか?」とか心配になることがあると思います。みんな真面目なのか?でも、まずはやってみる」ことが大切。できなかったことで減点するのではなく、できたことを加点する」という考え方でみんなが取り組みるといいですね。

それから、「今まで頑張ってきたこと」や「今できていること」をしつかりと評価して、自分を含めた関係者をよく頑張ったと褒めてあげる」ことも次の活動のパワーにつながると思っています。

「いつも新しいことにチャレンジしてすごいですね。」と言われることがあります。が、「こういうことをやると地域がもっと良くなるのではな

清水 靖枝さん

瀬谷区阿久和北部地区社会福祉協議会会長、同阿久和北部連合自治会事務局長、同民生委員児童委員協議会副会長、横浜市みどりアップ推進委員、横浜市長屋門公園歴史体験ゾーン事務局長 等

昭和56年原中学校初の女性PTA会長に就任し、その後、自治会改革などに携わる。横浜市初の市民運営による長屋門公園を拠点にエネルギーに地域活動に取り組んでいる。



聞き手

藤澤 智明

瀬谷区福祉保健課長
(平成20・21年度 阿久和北部地区支援チームサプリーダー)



おやじの広場 (長屋門公園)



見守り合いの家・大きな傘

「いか？」という思いで取り組んでいることがほとんどなので、自分としてはすごく自然な流れの中でやっているんです。いつも「何か新しいことを始めなきゃ」と思って活動をしているわけではない、というのが実感ですね。

「今日から地域活動を始めます。」って宣言して始めるものでもないで、皆さんには「自然体で始めてみてください。」とお伝えしたいですね。

形にとらわれない地域活動、自然発生的なリーダー

地域活動を始める時に、とかく器(組織)を作って役員を決めて、役割分担をする、ということをやりがちですね。そうではなく、やるべきことを皆で共有して、それぞれの得意分野を活かしながら力を合わせて物事を解決して

いくことが大切だと思っんです。形は後からついてくるものだし、向き合うテーマによって形は変わっていくもの。「形を作って一安心」ということにならないよう、そのことにはいつも気を配っています。

地域の中で「こんなことをお手伝いしてくれる人を待っています。」というメッセージを送っていると、不思議なことに、この指とまれで人が集まってくれます。その点で、振り返ってみると、私は人に恵まれ、「とてもたくさんの人たちに支えてもらった。」というのを実感します。一人では何もできなかったし、ここまで続けられなかったと思います。

これまで、人と人をつなごうと意識して、行動し

たことはないですね。ただ、先ほどお話ししたように、人が一人でできることは限られますから、人と人がつながっていくことはとても大切なことだと思います。共通の目標に向かって、ゆるやかにつながっていくことが大切で、それが長続きする秘訣だと思っています。

人と人とのつながりという意味では、平成18年度から始まった「地域福祉保健計画」は一つの転機だったかもしれせん。第1期阿久和北部地区別計画(平成18年度、22年度)の中で「定年後の男性の地域活動への参加」を一つの目標にしました。「土曜日の夜に、古民家のいりりを囲んで語り合いませんか?」

と呼びかけ、長屋門公園に集まってもらったメンバーで思い出話や地域への思いを語り合ってもらったのが始まり。その集まりを母体に、65歳以上の男性による「阿久和北部おやじの広場」が立ち上がった、明るく・楽しく・自分

のためにを合言葉に地域活動の主な担い手として頑張ってくれています。今、活動が10年目に入っていますが、会長などを置かないフラットな関係のため、テーマごとにリーダーが生まれて、ごく自

然に運営されています。メンバー各々の得意なところを認め合い、地域の隙間や人手の足りない所へ入り込んで活躍しているところが素晴らしいです。長屋門公園のメンテナンス、「大きな傘」の運営スタッフ、区内イベントのお手伝いと活動は多岐にわた

は見守り、時には見守られ、お互いさまで助け合える地域になっていけば素晴らしいな、と。そのような地域で、自分自身、今までどおり肩肘張らずに関わっていただけらと思っています。

【インタビューを終えて】

平成20年度に瀬谷区役所に着任して、地区支援チームサブリダーとして清水靖枝さんにお会いして以来8年のお付き合いになります。

何かを始めようとする時に「言いだしっぺ」が必ずリーダーをやらなければいけないとなると声を上げにくいのではないのでしょうか?リーダーやリーダーを補佐する人は自然発生的に出てくるものだと思いますし、それが理想ですね。

お互いさまの精神で「誰もが見守り・見守られる地域」に

認知症や児童虐待など、地域でもさまざまな問題を抱えています。

ついつい「見守る人」、「見守られる人」と線を引いてしまいがちですが、できることは自分でが基本。そのうえで、「助けてほしい。」と気軽に声をあげられて、「お手伝いできますよ。」という声が返ってくる。そんな時に

また、これまでお話を伺う機会のなかった地域デザイナーのきっかけなどもお聞きでき、清水さんのパワーの源を感じられる1時間半でした。これからも「コミュニティデザイナー」として活躍し続けてくださることを期待するとともに、区役所として少しでも力となるよう、伴走機能を果たしていきたいと気持ちを更新いたしました。(藤澤)